

原 耕造 若者夫婦との対話

～生きものと、食べものと自分の関係～

若者夫婦が BASC の原耕造氏に、等身大の視点で、生きものと自分の生活について質問しました。身の回りの生きもののお話から、お米、食全般、そして生きもの調査の意味まで話は広がりました。

普段の生活の中で、生きものと触れ合う機会はありますか？

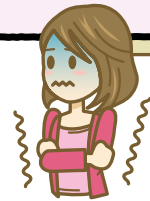


仕事だと一切無いですね。
パソコンを使う仕事なんで。
休日は散歩とかすると、小さな虫を見かけたりはします。

家に虫が出るんですよ！
むかでとか！



そういうの見て、気持ち悪いって逃げない？
女性は苦手だよな。



家の中に出ると、やっぱりバーンと退治しちゃいますね。
出るべきところにいれればいいんですが、！



外にいるぶんにはいいんですけどね、...



家の中に出ると、やっぱりバーンと退治しちゃいますね。
出るべきところにいれればいいんですが、！



東京がコンクリートだらけになったのなんて最近だし、
本当は虫なんてたくさんいて当たり前なんだけどね。



お米はどうやって
手に入れてますか？



スーパーで買ってます。



実家が福島なんで、たまに送られてきたりもするけど、
ほとんどはスーパーだよな。



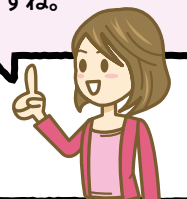
だいたいどういう基準で買ってる？お米は。



値段の次は？



やっぱり一番見るのは値段ですね。



次は、、、品種ですね。
と言っても、あんまり知らないんです？



そうだよな。
家で食べてる米、何なのか知らないかも。



何年産のお米か、なんてのは見たことがある？



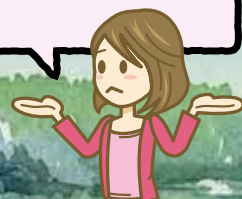
ブレンド米の一部にはあるね。



..、そもそもなんですが、何年も前のお米が
売ってたりするんですか??



そういう知識が全くないです。
何を選んだらいいかわからないから、
ほとんどイメージで買ってます。



BASCのホームページには、生きものがたくさんいることが重要というメッセージがありました。率直に、どう感じますか？



生きものがある土は、いい土。つていうのは良く聞いたり、小さいころに学校で植物を育てたりした体験したことがあるので、わかります。



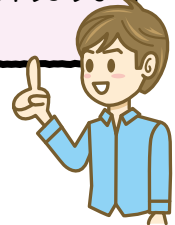
でも都会では「食べものと虫」、つていうとき、違和感があるよね。キャベツに虫がついてたら、きゃーって叫ぶでしょう。



それは、そうですね。



僕は食べものと虫つていうと、野菜を食べちゃうような悪い虫を思いつきます。



そうだね。虫つていうと悪さする害虫が先に思いつくよね。虫がついた野菜は買いたくないし、虫食いがあるキャベツは食べたくない。



虫が食べるんだから美味しいキャベツなんだ、つて思いますが、いざ買うとなると、なかなか手が出ません。



そういう意味では、食べものは食べもとして、独立してそこに在るんだよね。作る現場がこちらにあって、作っている現場にはミミズがいればいって思っているけど、商品としてスーパーに並べられたらそこにミミズはいてはいけない。作る現場と、食べる現場がつながっていないんだよね。



都会の真ん中になればなるほど、虫がいると違和感があるかもしれません。



虫がいたらクレームつけられるからね。



どうして、そんなふうにするところが遠くなっちゃったんでしょうか？



僕が子供のころは、スーパーなんて無かったんだよね。八百屋、豆腐屋、肉屋、、、スーパーが無いとき、流通が今ほど発展してない頃は、近くにあるものを食べていたんだよね。

そして時代が変わっていき、「豊かな生活」をしたいという要求が大きくなっていった。その時の「豊かな生活」は、安くて、美味しいものが、簡単に手に入る、ということだった。それによって生産の構造も変わってきたんだ。

昔は、ひとつの地域で、いろんなものをちょっとずつ作っていたよ。東京の人が九州のピーマンを食べることなんて無かったわけ。でも「豊かな生活」を実現するためには、一ヶ所で大量に作って、流通させたほうが効率的。そうやって、社会全体が一体となって、変わっていったんだよ。



「エサ」と「食事」の違いって何だと思う？



「豊かな生活」というのは、
数十年前とは若干変わってきていますね。



食べること自体が、楽しい、ってことかな、
作業みたくなったら食事じゃないような、



食っていう漢字は、家を現す屋根の下に、
良っていう形だよね。
家庭にとって良い意味があるっていうコトなんだ。
単にカロリーを摂取することではないんだよ。



たしかに、急いで食べるファーストフードなんかは
エサを食べてるような感じがしてしまうことは
ありますね、



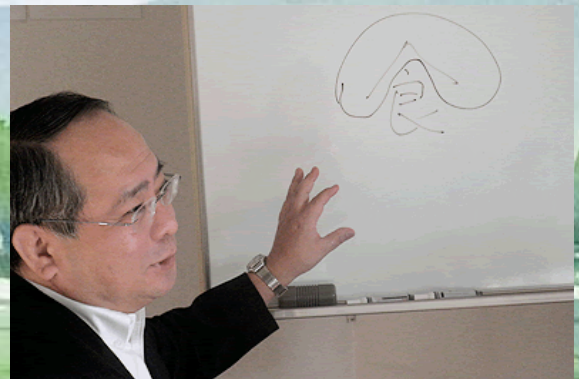
食って家庭にとっても、もちろん身体にとっても重要だ
よね。僕たちが食べてるのはエサじゃないんだから、
食べてるものに対してもっともっと興味を持っていき
たいものだよ。

それは、グルメをするっていうことじゃなくて、誰が作っ
ているのかなあとか、どんな田んぼや畑で作っているの
かなあとか、そういうことを想像することだと思うのね。

僕が若いときは興味なんて持たなくても、近くで作って
たから自然と知ってたんだよ。

でも今はわからなくなっちゃったでしょ。
しかも調べるとなるとかなり大変なこと。

そして食べる人たちがその過程を調べなくなるから、
その中間で悪い事ができてしまうんだよ。



トレーサビリティってどういうものか知ってる?



そうだね。トレーサビリティの1つ目の意味がそれ。正解。実は全部で3つあるんだ。

2つ目の意味は、作る側が、自分が作ったものが、どこにどう行って、誰が食べてるかがわかるっていうこと。これもすごく重要なことなんだ。具体的には、風評被害から生産者を守ることもできる。



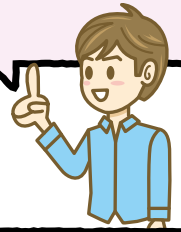
3つ目が、「生きもの調査」そのものなんだよね。自分が食べているものが、地球環境にとって、どういう影響があるかそれをたどることができる。

農業と環境の関係は聞いたことがあるんじゃないかな。田んぼが水をためる役割を持っていて、、、なんて話なんじゃないかと思うけど、でも、そう言われてもびんどこないでしょ?

自分が食べているもの、それを作っている現場、米だったらその産地の田んぼを見ることが重要なのではないかな、そういう予感がして始めたのが「生きもの調査」なんだよ。



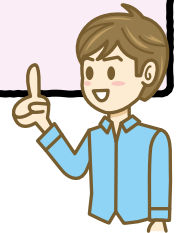
それ聞いたことがあります。
トレーサビリティってやつですね?



食べものを買ったときに、
どこで作られたかわかる仕組みですよね?



そういう意味もあったんですね!



「生きもの調査」をすると、、、
環境が良くなるんですか??



最初は、科学的な実証などなかったんだけど、あるとき、生きもの調査をしている子供の話を聞いていたら、生きもの調査をしている田んぼで取れたお米は、いろんな生きものがあるから美味しいんだ。というわけ。

細かい理論はおいといて、生きものが多いと美味しいと感じる。それは確かなことなんだと実感したね。

もちろん今では、農業技術としてや、生態系に及ぼす意味で、生きもの調査の意味は多方面にわたって重要な活動であることがわかっているけれど、そのときに生きもの調査は手段じゃなくて目的なんだとわかったんだ。



そうだね。

それから、僕たちが「イキモノ」というときの漢字は「生きもの」で「生き物」ではない。僕たちが言っている生きものはモノじゃないんだよな。

量じゃないんだよね、たくさんの命なんだよね。
たくさんの命に支えられて、僕たちは生きてるわけ。

食事の前に「いただきます」っていうのは、さまざまな「生きものの命」を「いただいて」いるから。近くで取れたものならば、一番近くに命を感じられるわけだよな。

そういう意味でも作っている現場と食べる現場が近づくことは大事だね。



ちょっと話しすぎたかな?

これから時代を作っていくのはあなたたちだから、
ぜひまたいつでも話しに来なさいね。



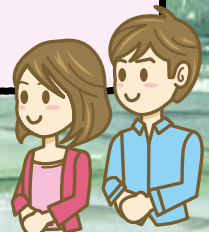
子供たちって、
大人より気づく力が強いでもんね。



なんだかいい話ですね。
そんなこと、まったく考えたことが無かったです。



ありがとうございました!



対談をしたご夫婦



T夫妻。

旦那さんはIT企業でサーバーエンジニアとして活躍中。
奥さんは音楽指導者として子供達に音楽を教えている。

今日のお話を聞いてみてどうでしたか？



生きもの調査というと、なんだか固い感じがしてましたが、自分が小さいころの田んぼに入ったこととかを思い出すと、行ったら楽しいんだろうなっていう感じはします。

田んぼに行こうなんて思ってもみなかったけど、一回見に行ってもいいかな、

それを見たら、生きものと食の関係っていうのも感じるかもしれないな。



私は小学校で子供と関わる仕事なんですが、今は川に行くことが特別な授業になってしまっています。生活の近くに無いから、しょうがないんですが、

なんだかそういうことを普通に体験できてた最後のほうの世代なのかもしれないと思うと、私たちがちゃんと子供たちに伝えなければと思いました。

それと「生きもの調査」は子供の頃ほうが感じる人が多いのではないかと思います。小さいときからこういう体験をするということって重要だなと感じました。

